

エレベーターが来ないのは 乗務員の責任なの！？

10月5日、新横浜駅ホームに設置されているエレベーターが動作不良となり乗務員の点呼が遅れる事象が発生しました。新横浜駅まで新幹線の回送列車を担当していく車掌が、到着して1階の事務室まで移動するために使用するエレベーターが何度ボタンを押しても下から上がってこないために起きたのです。

以前から会社は、到着してから8分しかない移動時間で時間が十分でないことを意識して、点呼が遅れそうなときは連絡するようにとってきました。今回の事象は時間が足りていないことと、駅の設備が不十分な結果発生した問題です。

特に大阪第二運輸所の3718行路において車掌が移動するときに発生する問題ですが、時間がない中でのゆとりのない作業は乗務員を慌てさせて怪我をする安全問題とも直結します。さらにエレベーターの動きが悪いとなると余計に焦りが生じます。これまで、たまたまうまく動いた時でも、車掌は重たいカバンを下げて慣れない駅の通路を駆け足で移動しています。

会社は「何かあったら速、連絡を」と言いますが、今の会社のやり方を見ていると、いざ点呼が遅れたときや労働災害が発生したときには時系列等報告書を書かせて全て社員に責任を求めるようなやり方です。こうした責任追及の姿が見えているからこそ、社員は慌てたり、急いだりしてしまうのではないのでしょうか。

駅の設備改善は安全問題と直結する問題です！

新横浜駅ホームエレベーターの動作が悪いことは、現場の新幹線メンテナンスの社員も訴えている問題です。

私たちは、エレベーターの設備改善と、ゆとりある作業ができる徒歩時間を増やすように会社に申し入れました。